

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援、放課後等デイサービスでの多機能で運営しており、他事業所に生活介護も運営しているため、一人の児童に長期間関わることができ、児童、保護者ともに安心して利用することができる。	・就学前から児童との関わることができるため、就学時に必要な準備も利用児童や保護者のペースに合わせて行うことができる。 ・入学後、卒業後も保護者や先生と細かく連携、情報共有を行うことができている。	他事業所や学校、療育センター、保育所等との関わり、連携を増やし、弊所以外との情報共有を増やしていくことで、児童・保護者がより安心して利用していただけるよう取り組んでいく。
2	医療的ケアが必要な未就学児も受け入れており、常に看護師が常駐しているため、人工呼吸器、気切等の児童にも対応できる。	・いつできたかわからない湿疹やあざ、擦り傷があればすぐに看護師が対応し、処置を行うことができる。 ・アレルギーや服薬管理も行っており、児童が安心して過ごすことができている。	未就学児は重症心身障害児の児童発達支援として受け入れているわけではないため、まだ知らない方に対して受け入れられることを伝えていく。 未就学児に対して経験の浅い看護師もいるため、より安心して受け入れられるよう研修等を行っていく。
3	理学療法士、保育士、公認心理士、言語聴覚士等の専門職が療育・支援を行っている。	・各専門職がプログラムの作成に関わっているため、専門的な支援を行うことができる。また、児童指導員や指導員も専門職の指導の下支援を行っている。 ・一人ひとりのアセスメントを各専門職の視点で行うことができている。	個別療育では専門的支援実施計画書を作成し、計画書に沿って支援を行っていくよう今後目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会が少なかった。	保育所や認定こども園、幼稚園等との関わりがほとんどなく、情報を共有したり連携をとることができなかった。 夏祭りや餅つき大会に地域の方も招待したものの、参加者が少なかった。	散歩や買い物など、外出した際のショッピングモールや公園等で、安全面に配慮しながら少しずつ地域のこどもとの交流を行っていく。 夏祭りや餅つき大会のチラシを作成し、地域住民の方に配るなどして、参加人数を増やしていく。
2	児童や家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が十分にされておらず、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明が不十分だった。	いつでも相談や申し入れについての対応は行えるようにしていたつもりであったが、評価としてまだ不十分であると感じた。	送迎時での保護者とのコミュニケーションをもっと密に行い、相談、申し入れを行いやすい環境づくりを目指す。 モニタリングで聴取できていない可能性もあるため、何か悩んでいることや疑問に思っていることを引き出していけるよう努める。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会がなかった。	様々な障害、特性をもつ児童に利用いただいており、それぞれ課題も違うため、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的かどうかの検討が必要。	毎年行っている保護者会を通して交流を深めながら、各家庭の状況や児童の課題や支援について情報を共有し、行ってほしい研修等を聴取して今後開催していけるよう取り組んでいく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU

公表日 年 月 日

利用児童数 年 月 日 回収数

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1				評価は高いため、今後もスペースを十分に確保した状態でサービスを継続していく。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1			送迎の時、職員が一人の時があり不安だったが、相談したらすぐに二人体制にしてくれた	今後も適切に職員を配置し、周知していく。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5						今後も快適な生活空間になるよう環境づくりを行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5						今後も快適な生活空間になるよう環境づくりを行っていく。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5					どちらともいえないという意見があったため、特性に応じた支援を行い、ご理解いただけるよう徹底していく。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5					わからないという意見もあったため、プログラムについての説明や行った内容を保護者にわかりやすく伝えていけるよう努める。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					いいえの意見があったため、より具体的な子どもの特性に合った計画を作成し支援に取り組んでいく。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					「本人支援」については、個別支援計画に5領域を取り入れて実際の支援でも実施している。「家族支援」では、保護者会やイベント等で支援を実施している。「移行支援」では、今年度はあまり関わりがなかったが、関係機関と連携が取れるよう努めている。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5						日々利用される児童について、利用前後に支援について話し合うようにしている。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5						プログラムは、その日利用される児童に応じて変更しており、行った内容をノートに記載して固定化しないように気を付けている。
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2		1			同じ区内の施設と合同で餅つき大会を行い、交流する機会を設けた。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					契約時に運営規程や重要事項について丁寧に説明するよう努めている。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5						個別支援計画を提示しながら支援内容について説明している。モニタリング時にも、個別支援報告書を独自に作成し、前回の個別支援計画を結果について説明している。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3			2			外部の研修のお知らせなどは児童には伝えたりしているが、伝えられていない方もいるため、全員に情報を共有できるよう目指していく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	5						連絡帳や送迎時にその日の出来事について報告をしている。相談等があればその都度連絡し合っている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3	1		1			モニタリングにて面談を行っており、送迎時に相談等をしやすい体制づくりを目指している。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5						児童の利益を常に優先しており、共感的な関わりの中で児童にも保護者の方にも安心して過ごしていただけるよう今後も努めていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5						毎年保護者会や餅つき大会や夏祭りを開催しており、その際に保護者同士で交流する機会を設けている。今後も継続して交流の機会を作っていく。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	1		1			相談や苦情窓口については契約時に重要事項説明書を説明しています。また当事業所以外にも区市町村の相談・苦情窓口の情報について記載しており、今後も周知に努めていく。
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5						それぞれの児童の発達状況に応じて一人ひとりに合わせたコミュニケーション手段を検討している。活動内容は毎日連絡帳に記載している。	

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4			1	四半期に一度、BILD通信を発行しており、年間スケジュールやイベント情報等を発信している。ホームページも随時更新しているが、頻度が増やせるよう努める。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4			1	契約時に個人情報保護の同意書にサインいただいております。個人情報の流出には十分注意し、徹底している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			1	それぞれマニュアル等は策定しており、研修、訓練等も実施しているが、保護者への周知が不十分であると感じたため、今後は周知・説明に努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1		1	年間スケジュールに記載し、(安全計画にも記載している)年2回以上訓練を実施している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4			1	安全計画に基づき、設備校舎環境の点検と共に、防災訓練含め、避難所、備蓄品などの確認に努めている。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4			1	作成されたマニュアルに沿って、事故発生時の対応を行っている。事故発生後の報告書の提出や行政への連絡も行っている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5				利用されている児童や保護者の方にも安心して過ごせるような環境づくり、サービス向上に努める。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5				今後も楽しいと思っただけのような活動や支援内容を提案していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				日々の個別支援やグループでの支援、将来の進路の相談も含めて、満足していただける支援が出来るよう努める。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU		公表日		2025年 3月 25日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・バギーを動かしたり走り回ったりできるスペース、部屋の広さが十分にある
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6	1	・子どもの人数や状況に応じて、職員数を増やすなどして対応している。 ・来所持や帰宅準備の際、人が足りておらず児童から目が離れてしまうことがある	人の目が少ないと感じたときは、声をかけあいながら同時に行動しないようにしていく	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6	1	・なるべく死角がないような部屋になっている ・エレベーターが設置されているが、扉が開まるのが早く、バギーを押している際に危険に感じることがある	エレベーターに乗せる際など時間がかかるかと判断したら、一度ブレーキをかけて開けるを押して行うが、人を呼んでボタンを押してもらう	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6	1	・毎日の掃除、感染防止対策を行っている ・発達や活動に合わせて環境を整えることができる日、そうでない日があるように思う ・身体を動かすプログラムを全力で行うことができる広さがある	イレギュラーがあるものの、前もって準備をすることでスムーズに支援を行えるようにしていく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6	1	・子どもの状況に応じて、部屋を分ける等の対応をすることがある ・3階のフロアでクールダウンや全体で身体を動かすことができる ・ベッドを使用する際のオムツ交換ではパーテーションではやはり見えてしまうため工夫が必要と感じる	スペースも考えながらパーテーションの変更を検討していく	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	・課題に対し、どうしていくかを検討・計画して振り返りが行われている ・みんなで声を掛け合い取り組むことができている	定期的な面談の中で目標を設定したりしているが、日々の中でも行えるようにしていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・保護者向け評価表の集計表を元に会議を行い、意向を確認し、業務改善ができるように努めている	保護者向けの評価表は継続して配布し、意向を把握して業務改善につなげていく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・定期的に話し合い、意見交換がされている ・疑問に感じたことをその場、またはその日の間にスタッフ間で確認するようにしている ・面談等の機会があり、意見することができ業務改善していただけている	職員との意見交換を定期的に行い、業務改善につなげる	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	・第三者による外部評価はまだ行っていない	検討していく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・スタッフ間で技術や支援の向上を図りたいと思った際、どの様に上司に伝えればよいか迷う	日々の業務の中で、いいやすい状況を作れるようにしていく	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・HPにプログラムやイベント等を記載しており、いつでも見られるようになっている	今後も継続して支援プログラムを作成し、公表していく	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		・利用前のアセスメントや6か月ごとのモニタリングで児童と保護者のニーズ、課題を把握し、分析したうえで個別支援計画書を作成している。	今後もモニタリングを徹底し、児童、保護者のニーズを分析したうえで支援計画を作成していく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・計画内容の共有が行われている。また、スタッフ複数で考えるようになっている	今後も計画作成の際には、スタッフからの意見を聞き、共通理解の下で検討していく	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	・計画内容をもとに、どういう支援をしていきたい共有されている ・計画を共有する時間が欲しい	会議に入れなかったスタッフに対して説明をしていく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・毎日の観察は行われているが、アセスメントの記録などはされていない	連絡帳や看護日報などに記載し、共有するようにしている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・5領域を通じて、適切な支援ができるよう、それぞれ具体的な支援内容が決められている	今後も個別支援計画の中に盛り込むことで設定するようにしていく	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・スタッフ同士や子どもと話しながらその日の状況にあったプログラム内容を決めている ・「こんなことをやってみたい」と自分を含め誰かが発信すると、必要なものやルールをみんなで考えている	日々の中で、話をしながら立案して、試して改善したりしながら行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・同じ内容を繰り返さないように毎日記録をしている	日々の中で、話をしながら立案して、試して改善したりしながら行っている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		・個別活動を集団活動をバランスよく、児童に合わせてできるように考えている	早帰りの日ができるが、遅い時間の来所は個別が難しいこともあるので検討していく	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・その日のイベントは、事前にお互いの動きの確認を行っている	朝の朝礼の際に話せる内容を考えて行っていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	・児童が帰った後は、スタッフが揃わないことが多く、毎日共有することはできていない	送迎後に話をする時間を作るのが難しいこともあるが、必要に応じて振り返り会議は行っている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	2	・連絡帳や日報に日々の記録の記載は徹底しており、気になることがあればスタッフ同士話し合っている。	記録を確認しながら、今後の支援へとつなげられるように時間を確保していく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・モニタリングは定期的に行われている	これからも継続して行っていく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・サービス担当者会議には、必ず一番理解したものが参画している	理解した職員が参画している
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・医療ケアのある児童は主治医から指示書を記載していただいております、リハ入院された児童については、連絡をとって見学に行ったり、退院後はNs,セラピストからサマリーをいただいております。	今後も連携して行っていく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	・移行に向けた支援はわからないことが多い ・園見学やデイ見学を通して、支援内容についてそれぞれの役割を確認できる機会は貴重だと思う	事業所によっては、連携がとれていないところもあるので、情報共有をはかれるようにしていく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	特別支援学校とは内容を共有したりできている	小学校との連携がとれにくい状況があるので、連携が図れるようにしていければ
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2	・センターとの連携について、わかっていないことが多い	普段からやり取りをしていないので、やりとりをする機会を設けていかないといけない
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	・交流する機会は少ないように思う ・外出の機会を増やしていきたいと感じる	交流する機会を設けるのは難しい状況
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎時、その日の子ども様子を伝えたり、確認したりしている ・連絡帳で些細なコメントも児童の状況について知る大切な情報だと思うので、送迎時に話題にする等、共通理解に努めている	送迎時などに情報共有をしているので、今後も継続していく
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	・家族支援プログラムは実施できていないが、虐待委員会では保護者に委員になっていただき、参加していただいている。	特に研修をおこなっていないので、機会を設ける取り組みを検討していく	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・利用前に運営規程やプログラム、年間予定、利用者負担については丁寧に説明を行っている。	説明する職員が理解して説明ができるようにしていく
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・モニタリング等で家族の意向を聞いている	普段のやり取りからも相談などあれば、面談をする機会を設けたりしている
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		・必ず説明してから同意のサインをもらっている	説明できる職員が行うことで丁寧に説明することを継続していく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・家族から、利用児童だけでなく、兄弟や姉妹の悩みについても時々相談を受けている。管理者や児童発達支援管理責任者が対応を行っている。	普段のやり取りからも相談などあれば、面談をする機会を設けたりしている
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	・保護者会、夏祭り、餅つき大会等、保護者が集まることができる機会を作っている	今後も継続していく
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・保護者から申し入れ等あれば、速やかに報告し、スタッフ間で話し合いがされている	保護者から相談があればスムーズに解決できるように取り組んでいる

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		・毎月の行事予定が書いた紙、BILD通信、HP滞情報発信が行われている	今後も継続していく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・職員の採用前に機密事項についての書類にサインをいただいております。今回、退職後の個人情報保護について記載したのもサインをもらうことになった。	引き続き、留意して取り扱っていく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・利用児童の意思疎通や情報伝達については、常に課題として挙げられ、計画書にも記載し、配慮を行っている。	利用者それぞれの特性を理解したり、保護者への対応をスタッフ間でも共有して配慮するようにしていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	・地域の方々も参加できるイベントが開かれている	引き続きイベントを行っていく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・安全のための研修が行われ、ほとんどのスタッフが参加している	マニュアルに関しては、更新しながらHPにて提示していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・BCPが策定されており、避難訓練等も実施している	研修を定期的に行っていく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1	・服薬情報等、事前の確認はあるが定期的にはされていないように感じる ・「発作があった」だけでなく、いつどこでどのくらいの時間生じたかと聞いたり見たりしている。	連絡帳などのやりとりで確認しているので今後も続けていく
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・「発作があった」だけではなく、いつどこでどんな発作がどのくらいあったかを確認するようにしている	食事の際など環境を整えて行っていく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成しており、必要な研修や訓練を行っている。安全管理については十分注意している。	その都度、更新しながら継続していく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	・家族への周知はされていないように感じる	広報誌などで伝えているので中身をおこなっていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	・ヒヤリハットは上司に報告、必要に応じて対策の話し合いがされている	周りも声かけをしながら記入する機会を増やせるようにしていく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・虐待防止研修が行われている	定期的に研修を行っていく
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		・身体拘束は行っていない。身体拘束についての研修は毎年実施しており、どんな時にやむを得ず行うことになるか等を周知している。	定期的に研修を行っていく